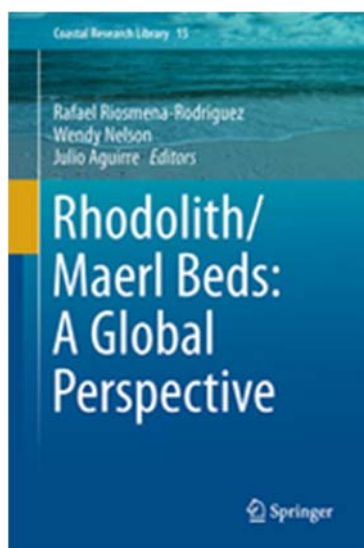


加藤助教の分担執筆本「Rhodolith/maerl beds: A Global Perspective — Rhodolith/maerl beds (石灰藻球の藻場) の世界的展望」が Springer から出版されました。

世界4大藻場の1つ Rhodolith beds の学際的な解説書



Rhodolith (赤い石の意味) とは、非固着性の無節サンゴモ (紅藻類) で、石灰質を体に沈着する海藻類の1つである。日本語では、石灰藻球あるいはサンゴモ球などと呼ばれる。この rhodolith が堆積した地形は、rhodolith bed, Lithothamnion-bank, マサゴ原などと呼ばれ、潮間帯から水深 100m 以深まで分布が確認されている。

こうした地形は、海藻藻場、海草藻場、サンゴ礁の石灰藻群集に匹敵する、世界4大藻場の1つとも言われており、多くの動植物に住み場所を与えると同時に、炭酸カルシウム生成などにより炭素循環にも貢献している。

一方で、rhodolith は土壌改良剤 maerl としての商業的な利用もある。しかし、rhodolith の気候変動や海洋酸性化に対する脆弱性も懸念されている。こうした点について最新の内容が紹介されている。

(北西太平洋のおもな Rhodolith beds は、南島原市「白洲」や済州島など)

(編者) Riosmena-Rodriguez, R., Kendrick, G. & Aguirre, J.

(著者) 「Chapter 14. Western Pacific — 14章. 西太平洋」加藤亜記 他3名

(出版社) Springer (2016年10月)

(※詳細, Springer の HP をご覧ください。)

<http://link.springer.com/book/10.1007%2F978-3-319-29315-8>

(生物圏科学研究科の教員の著書紹介)

http://hiroshima-u.jp/gsbs/research/kyouin_cyosyo